

●2010 年度第 1 四半期決算説明会（IR）質疑応答議事録

日時 : 2010 年 7 月 29 日（木）18 : 00～18 : 35
場所 : 富士通汐留本社 24 階大会議室
説明者 : CFO 執行役員専務 加藤 和彦

Q1. 第 1 四半期の営業利益の計画に対して、どのセグメントがどのくらいプラスになりましたか。

A1. 計画比 100 億円プラスのうち、テクノロジーソリューションが半分、残りはユビキタスソリューションとデバイスソリューションとその他でそれぞれ同程度。更にテクノロジーソリューションのうち、サービスとシステムプラットフォームで半々です。全セグメントで計画比プラスとなりました。

Q2. 国内 IT 市場の状況はどうでしたか。7 月の状況もできれば教えてください。第 1 四半期実績のうち、第 2 四半期以降からの前倒し案件はどのくらいありましたか。

A2. 国内のテクノロジーソリューション全体での富士通単独売上数値を見ると、第 1 四半期計画が前年同期比 92%に対して同 99%となりました。業種別で見ると、産業が同 105%、流通が 103%、社会基盤が 92%、金融が 102%、公共が 118%、地域が 95%でした。産業・流通、社会基盤、金融、公共が計画を上回りました。7 月は前年同月比では良い状況です。残りわずかですが、悪くなる様子は今のところありません。通期は 104%と年初計画から変更していません。ただし業種別に年初計画から見ると、産業は良くなりますが、流通は個人消費の低迷が続く可能性があり若干落ちます。地域も足もとが苦しいので若干落ちると見ています。金融や社会基盤は計画を変えていません。ネットワークで前倒しの売上が 50 億円程度ありました。地デジ対応の光テレビが追い風になってくれました。また前年同期比で見ると、北米市場でスマートフォン拡大に伴う画像処理の増加により、通信トラフィック増大が進み、通信キャリアの光伝送への投資が大きくなっており、当社も受注が強くなっています。

国内のネットワーク投資は、年間投資額が決まっていますが、期待したいのは北米のネットワーク投資がどの程度続くかで、我々のものづくりがどの程度対応できるかがポイントになります。

受注は 6 月までを見ると前年同期並です。昨年来、前年同期割れが続いていましたが、ようやく底が見えたと思っています。7～9 月の受注が前年を上回る状況になれば、もう少し自信のある話ができるのではないかと考えます。

Q3. 海外の子会社の第 1 四半期の売上と営業利益の実績と計画比を教えてください。特に英国政府は予算を 25～40%削減するということですが、（英国）富士通サービスのビジネスへの影響についてはどうお考えでしょうか。

A3. 海外子会社は残念ですが全体的には赤字でのスタートとなりました。富士通サービスは通常のビジネスはほぼトントンでしたが、年金負担増が影響し、結果的には第 1 四半期は赤字になりました。英国政府の予算削減は懸念されますが、全体的には計画通りです。既存の政府系商談については、値引きの要求はあっても、途中でやめるとい

うような話はありません。また、値引きについても想定していたものであり、計画にも織り込み済みです。ただ、地方や民需系商談の獲得を計画に含めており、第4四半期にかけてこれをどれくらい実現できるかにかかっていると思います。先般獲得したノルディック地域の商談のような規模の大きな商談をもう数件獲れると計画を達成できると考えています。オーストラリアは買収効果が出ておりデータセンター商談を中心に活発です。近々大きな商談がまた一つ獲れそうで、非常に堅調に進捗してきています。一方、北米は大きな赤字でのスタートとなり、もう一段、構造改革の手を入れないと拡販につながっていかないと考えています。北米の市場状況自体は悪くありませんので、商談を獲っていきたいと考えておりますが、少し時間がかかりそうです。

以 上